

第5学年 国語科学習指導案

児童 5年1組 男20名 女19名
指導者 淵 澤 聡

目的や意図に応じた書き方を工夫し、

盛岡職人のよさを多くの人に伝えよう

中心学習材 「文集 もりおか」（第41号）「残そう 伝統工芸品」（児童作品）

補助学習材 城南小学校区の伝統工業にかかわる見学【体験活動】

岩手日報夕刊「声の欄」投稿【新聞資料】

「千年の釘にいどむ」（光村5年上）【既習教科書学習材】

<育てたい主となる能力>

◎事実と感想，意見などを区別するとともに，目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。（書ウ）

<主となる言語活動>

◎盛岡の伝統工業に携わる職人のすばらしさを様々な人に伝えるための文章を書く。

1 子どもと単元について

(1) 学習者観

子どもたちは「書くこと」領域の「調べたことを整理して書こう」の学習において、図書資料から情報を正しく適切に引用しながら、事実（結果）と考察、感想の書き分けを意識し、言葉に関するレポートを作成する言語活動を行った。既習には調査報告文があるが、その後の活用を視野に入れ、横書きのレポート形式でまとめた。この学習を通して、調べたことを表にして分かりやすく整理する工夫や、分かったこと自分が考えたことを、読み手に明確に伝えるための文章の構成について理解を深めてきた。児童はこの経験を生かして、夏休みの研究レポートや自由研究にチャレンジし、調べたこと（事実）や分かったこと、考えたことを区別して書き表す力を更に付けてきている。しかし、様式に合わせた書き方ができても、その中に述べられる内容が十分と言えないものや、自分の考えの根拠となる引用が効果的にできていないレポートや作品がまだ目立っている。国語に限らず、他教科でも自分の考えを書く活動を取り入れているが、考えの材料となる部分（表現内容）をもっと多くもたせ、それを目的や意図に応じて記述する学習経験が必要だと感じている。

(2) 学習材観

本単元「目的や意図に応じた書き方を工夫し、盛岡職人のよさを多くの人に伝えよう」では、事実と感想，意見などを区別するとともに，目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすることを主なねらいとしている。この単元における「事実と感想，意見などを区別する」とは、自分が見学した内容を基に意見文という様式にしたがって記述することであり、「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること」とは、発信先に応じた文章様式や文字数の制限に合わせて文章をリライト（書き換え）することである。

様式に応じた書き方を学ぶことは「書くこと」の学習の中心的な内容である。しかしその様式に合わせて書くことができたとしても、その内容（直接・間接いずれかの体験に基づく事柄や問題）が十分でなければ、児童の意欲も文章の質も高まらない。そこで他教科・領域との関連を図りながら書くための材料を収集、選択させるという考えに立ち、四つの学習材を用意した。

記述内容の中心となる題材は、「身近な伝統に目を向けよう」（総合）で見学調査する、学区にある伝統工業とそれを営む職人である。鉄瓶、染め物などの伝統工業に携わる職人の技や仕事にける情熱を目の当たりにした児童は、その感動を、見ていない多くの人にも伝えたいという気持ちになるに違いない。「千年の釘にいどむ」（国語）で学習した白鷹さんの生き方も、児童の職人さんへの見方、考え方に大きな役割を果たすものと思われる。

この見学した事実やそこから生まれた感想，意見を「文集もりおか」の作品を例に意見文

にまとめていくが、同じ小学生が書いたものであることから、内容や文字数なども適切であり、児童のモデルとしてふさわしいと考える。その後、それぞれ発信したいと考えている相手に合わせて文章をリライトする。その形式を学ぶ学習材として、例えば岩手日報夕刊「声の欄」等を用意する。これらの学習材を生かし、児童は自分が伝えたいと考えている内容について、目的や意図に応じてまとめる言語活動に主体的に取り組んでいくものとする。

(3) 学習指導観

指導に当たっては以下の点に留意していく。

第1次では学習計画を立て、本単元で身に付ける力と、そのための学習内容を明らかにし単元の見通しをもたせることで意欲付けを図る。

第2次では、まず意見文の様式を学ぶ。既習の「言葉の研究レポート」での結果—考察という関係がここでも生かされること、レポートでは自分の考えを強化する結果の部分が図書資料によるものだったが、今回の意見文では体験によるものにおきかえられることを押さえる。モデルとして「文集もりおか」の意見文を扱い、身近な目標をもたせることで意欲付けを図る。文章構成の基本は「初め（問題関心）→中（見学した事実）→終わり（自分の意見）」の3部構成で、尾活型を基本とする。

第3次では、見学箇所が同じ児童同士で事実の部分を確認しあったり意見を交流しあったりしながら、構想メモ作りをさせる。最終的には1000字～1200字程度の意見文を記述させる。なお、レポートの時と同様、意見を強化するという観点での事実の取り上げ方を工夫させたい。

第4次では仕上げた意見文を基に、自分の発信したい相手や場所に応じた様式に合わせ、リライトを行う。発信先としては以下を想定している。

- ア「岩手日報夕刊『声の欄』（450字程度）
- イ「IBCラジオ『僕の作文，私の作文』（2枚半程度）
- ウ「見学先の職人さん」（数制限特に無し）

自分の意見を軸にしながらか条件に合わせて取り上げる事実を厳選させ、それぞれの文章を記述させたい。

(4) 教科等の学習や日常生活への活用例

- ・共に考えるために伝えよう／自分の考えを発信しよう＜意見文＞（国語）
- ・文章を読んで自分の考えをもとよう＜要約＞（国語）
- ・自主研究や調査報告における感想，考察（総合的な学習の時間）

2 学習指導目標及び評価規準

	学習指導目標	評価規準
国語への関心・意欲・態度	◎見学を通して感じた盛岡の職人の素晴らしさを意見文に表して伝えようとしている。	・自分の考えを、意見文の様式や、発信先に合わせて書こうとする。
書く能力	○モデル学習を生かし、意見を明確に記述するとともに、意見の裏付けとなる事例を挙げることができる。（書ウ） ◎発信先に合わせて、自分の意見文をリライトすることができる。（書ウ）	・事実と感想，意見を区別して書き、それらが互いに関連し合う内容となっている。 ◎自分の考えをきちんと伝えるための文章構成を考えている。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○発信先に合わせた文章，文末表現に気を付けることができる。（イ（カ））	・語感や言葉の使い方に関心をもっている。

3 学習指導計画（全 11 時間）

【主な段階】

【主な学習活動】

【主な活用】

南芳タイム（総合）

地域の伝統工芸を見学する。（単元前）

第 1 次

単元のねらいを知り、学習計画を立てる。（1 時間）

① 単元のねらいを知り、単元の学習計画を立てる。

<評価> _____

① 職人さんの素晴らしさについて伝える方法を自分なりに考え、単元の学習に見通しをもっている。《シート》

第 2 次

意見文の書き方を習得する。（2 時間）

②③『文集もりおか』の意見文などを参考にし、意見文の書き方（構成）を身に付ける。

<評価> _____

②③自分の考えを明確にするための、文章全体の構成の工夫をとらえている。《シート》

第 3 次

伝統工芸や職人のすばらしさを伝える意見文を書く。（5 時間）

④⑤同じ見学場所の友達と事実を確認したり、考え方を交流したりしながら、見学内容を基に、書くための材料を整理する。

⑥ 構想メモを作る。

⑦⑧ 1000 字～1200 字程度の意見文にまとめる。

<評価> _____

④⑤考えたことや意見を交流しながら、その意見を述べるために必要な事実を書くための材料として収集している。《シート》

⑥ 意見文の構成に即して構想メモを作成している。《構想メモ》

⑦⑧自分の考えを明確に示し、その裏付けとなる事実を事例として挙げている。《意見文》

第 2 次で学んだ書き方を生かして、意見文を書く。

第 4 次

発信先に応じてリライトをする。単元の振り返りをする。（3 時間）

⑨⑩自分の発信先に応じてどのような書き方の工夫が必要かを考え、それに基づいて意見文をリライトする。（本時⑨）
⑪ 単元の学習を振り返る。

<評価> _____

⑨ 読み手や字数制限等を考慮した書き方の工夫について考えている。《発表、シート》

⑩ ⑨で確認した工夫にしたがい、文章を書いている。《リライトした文章》

⑪ 単元を通して学んだことや身に付けた力について振り返り、自分の成長を実感している。《シート》

第 3 次で書きまとめた意見文を基に、前単元までに学んだリライトの手法を生かして、盛岡職人のすばらしさを伝える文章を書く。

それぞれに発信し、盛岡職人のすばらしさを読者に伝える。

4 本時の指導 (9/11)

(1)ねらい

自分が書いた意見文を基に、選んだ発信先に応じた文字数や文章様式に沿って、リライトすることができる。

(2)既習の知識・技能を活用する言語活動

前單元までに学んだリライトの手法の知識・技能を生かして、自分が書いた意見文を発信先の条件に合わせた文章に書き換える。

(3)展開

段階	学習活動・学習内容	形態	指導上の留意点
つかむ	<p>1 本時の学習課題を確認する。(1分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>発信先に合わせた書き方を工夫し、自分の意見文をリライトしよう。</p> </div> <p>2 発信先に応じたリライトのポイントについて話し合い、課題解決の見通しをもつ。(10分)</p> <p>○相手意識、場面状況意識を明確にもつこと。</p> <p>(1)読者や聴者(相手意識)に応じた書き方の工夫 →一文の長さ、言葉遣い、「 」やオノマトペの使い方</p> <p>(2)条件に合わせた書き方の工夫 →文字数、手紙の様式</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><発信先に応じた書き方の工夫></p> <p>①「岩手日報夕刊『声のらん』」 →少ない字数に収めるために縮約すること。特に事実を精選し、タイトルを工夫すること。</p> <p>②「IBCラジオ『僕の作文私の作文』」 →事実の部分を、短い文章で表現し、臨場感のある文章にすること。</p> <p>③「見学先の職人さん」 →本人への手紙形式になるので、敬語などの使い方に気を付けること。</p> </div>	全	<p>○自分の意見や考えを明らかにした意見文を基に、自分の選んだ発信先に合わせ、文章をリライトすることを確認する。</p> <p>「どのような人が読み(聞き)ますか。また相手を考えてときに、どのような書き方の工夫をするとうまいでしょう。」</p> <p>○読者(聴者)は以下のように想定させる。</p> <p>①「岩手日報夕刊『声の欄』」 →読者は一般県民</p> <p>②「IBCラジオ『僕の作文私の作文』」 →聴者は活動しながら聞く人</p> <p>③「見学先の職人さん」 →読者は職人さん</p>
発信先に合わせた文章を書く	<p>3 それぞれが発信先に合わせて文章をリライトする。(25分)</p> <p>○<発信先に応じた書き方の工夫>の囲みに示したようなポイントを意識しながら文章をリライトすること。</p> <p>(1)自分の発信先のポイントをメモする。</p> <p>(2)記述する。</p>	個	<p>「それでは、ポイントにしたがってリライトしてみましよう。」</p> <p>○原稿用紙3枚分の意見文全体が一目で俯瞰できるように、作業用のシートを工夫する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><評価></p> <p>A ポイントを意識しながら文章を書き上げ、読み手を考えたタイトルや文末表現の工夫まで行っている。</p> <p>B ポイントを意識しながら文章を書き上げている。</p> <p>Cへの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で書き進めている児童の作文を紹介し、参考にさせる。 ・教師がポイントに応じ、個別に指導する。 </div>
まとめ	<p>4 自己評価をし、今日の学習を振り返る。(8分)</p>	個	<p>○書き終わった児童には、清書に取り組みさせる。</p>

める	<p>○学習の振り返りを具体的に記述することで、成果と課題を自覚すること。</p> <p>5 次時の学習への見通しをもつ。 (1分)</p> <p>・次時の学習内容を確認すること。</p>	<p>○自分のシートに書いているポイントにふれながら自己評価をさせる。</p> <p>○何人か発表し、学習成果を認め合わせる。</p>
----	--	---